

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4445525号
(P4445525)

(45) 発行日 平成22年4月7日 (2010.4.7)

(24) 登録日 平成22年1月22日 (2010.1.22)

(51) Int.Cl.		F I	
E O 4 H	1/04	(2006.01)	E O 4 H 1/04 C
E O 4 F	19/08	(2006.01)	E O 4 F 19/08 1 O 2 G

請求項の数 5 (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2007-172909 (P2007-172909)	(73) 特許権者	000183428
(22) 出願日	平成19年6月29日 (2007.6.29)		住友林業株式会社
(65) 公開番号	特開2009-13581 (P2009-13581A)		東京都千代田区大手町一丁目3番2号
(43) 公開日	平成21年1月22日 (2009.1.22)	(74) 代理人	100076532
審査請求日	平成19年8月20日 (2007.8.20)		弁理士 羽鳥 修
		(74) 代理人	100107205
			弁理士 前田 秀一
		(74) 代理人	100112818
			弁理士 岩本 昭久
		(74) 代理人	100101292
			弁理士 松嶋 善之
		(72) 発明者	宇田 章弘
			東京都千代田区丸の内一丁目8番1号 住友林業株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ロフト付き集合住宅

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

主外壁側に居室部を備える住戸が各階に複数連設配置された複数階の集合住宅用建物の各住戸に、ロフト部を設けたロフト付き集合住宅であって、

各住戸は、上下階で略同様の間取りを備えると共に、各隣接する住戸が前記主外壁と垂直な仕切り壁によって仕切られており、

各住戸の少なくとも一方の仕切り壁と主外壁とによる角部分に、上下階を貫通するようにして配設された矩形断面形状の筒状壁部によって囲まれる収納室が、各居室部から出入り可能に設けられており、

各収納室の天井高さは、各居室部の天井高さよりも高くなっていると共に、各収納室は、ロフト床によって上方のロフト部と下方の収納部とに区画されており、且つ上階の住戸では、前記収納室の床部が各居室部の床部よりも高いスキップ床となっているロフト付き集合住宅。

【請求項2】

前記筒状壁部は、隣接する住戸を仕切る仕切り壁を挟んだ両側に一対連設配置されている請求項1に記載のロフト付き集合住宅。

【請求項3】

前記筒状壁部は、前記主外壁側の一部を前記主外壁よりも外側に突出させて設けられている請求項1又は2に記載のロフト付き集合住宅。

【請求項4】

10

20

前記筒状壁部の前記主外壁よりも外側に突出する部分の側方には、前記主外壁に沿って、上階の住戸のバルコニーが設けられている請求項 3 に記載のロフト付き集合住宅。

【請求項 5】

前記主外壁と平行な棟を有する切妻屋根又は寄棟屋根によって一部を除く屋根部分が形成されており、前記筒状壁部は、前記棟よりも前記主外壁側の部分が当該主外壁側に向けて登り勾配となった部分を含む片流れ屋根部又は招き屋根部によって覆われており、該片流れ屋根部又は招き屋根部の下方に最上階の住戸の前記ロフト部が設けられている請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載のロフト付き集合住宅。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本発明は、ロフト付き集合住宅に関し、特に、主外壁側に居室部を備える住戸が各階に複数連設配置された複数階の集合住宅用建物の各住戸に、ロフト部を設けたロフト付き集合住宅に関する。

【背景技術】

【0002】

例えば賃貸用の住宅等として用いられる集合住宅では、1 棟あたりの住戸の数をできるだけ多くすると共に、効率の良い設計や施工が可能なように、上下階の住戸を略同様の間取りとし、且つ通路や階段等の共用部分が設けられる側の外壁とは反対側の面を主外壁として、この主外壁側の部分に各住戸の居室部を配設した構造の建物が一般に採用されている。

20

【0003】

一方、近年、例えば単身者用のアパートやマンション等の集合住宅の住戸として、狭い空間を有効に利用するべく、床部と天井部との間に中間床を設けて、中間床の上方に、就寝用の寝床や収納スペース等として使用可能なロフト部を形成した住戸が好ましく用いられる傾向にある（例えば、特許文献 1 参照）。

【特許文献 1】特開 2005-273238 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

30

集合住宅の各住戸の床部と天井部との間に中間床を設けてロフト部を形成する場合、ロフト部の下方に例えば居住者が立つことのできる相当の高さのスペースを確保しようとすると、住戸の階高を高くしなければならず、建物全体の高さを高くする必要を生じることになる。すなわち、複数階の集合住宅の場合、最上階の住戸については、例えば屋根裏空間等を利用して、住戸の階高を高くすることなくロフト部を設けることが可能であるが、最上階より下方の下階の住戸については、ロフト部を設けた部分以外の領域の階高も高くしなければならぬため、建物全体の高さが高くなると共に、住戸の内部に無駄な吹抜け空間が生じやすくなる。

【0005】

本発明は、このような従来の課題に着目してなされたものであり、集合住宅の最上階の住戸のみならず、下階の住戸についても、建物全体の高さを高くすることなく、下方に相当の高さのスペースを確保できるロフト部を効率良く設けることのできるロフト付き集合住宅を提供することを目的とする。

40

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、主外壁側に居室部を備える住戸が各階に複数連設配置された複数階の集合住宅用建物の各住戸に、ロフト部を設けたロフト付き集合住宅であって、各住戸は、上下階で略同様の間取りを備えると共に、各隣接する住戸が前記主外壁と垂直な仕切り壁によって仕切られており、各住戸の少なくとも一方の仕切り壁と主外壁とによる角部分に、上下階を貫通するようにして配設された矩形断面形状の筒状壁部によって囲まれる収納室が、

50

各居室部から出入り可能に設けられており、各収納室の天井高さは、各居室部の天井高さよりも高くなっていると共に、各収納室は、ロフト床によって上方のロフト部と下方の収納部とに区画されており、且つ上階の住戸では、前記収納室の床部が各居室部の床部よりも高いスキップ床となっているロフト付き集合住宅を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【0007】

本発明のロフト付き集合住宅では、前記筒状壁部は、隣接する住戸を仕切る仕切り壁を挟んだ両側に一对連設配置されていることが好ましい。

【0008】

また、本発明のロフト付き集合住宅では、前記筒状壁部は、前記主外壁側の一部を前記主外壁よりも外側に突出させて設けられていることが好ましい。

10

【0009】

さらに、本発明のロフト付き集合住宅では、前記筒状壁部の前記主外壁よりも外側に突出する部分の側方には、前記主外壁に沿って、上階の住戸のバルコニーが設けられていることが好ましい。

【0010】

さらにまた、本発明のロフト付き集合住宅では、前記主外壁と平行な棟を有する切妻屋根又は寄棟屋根によって一部を除く屋根部分が形成されており、前記筒状壁部は、前記棟よりも前記主外壁側の部分が当該主外壁側に向けて登り勾配となった部分を含む片流れ屋根部又は招き屋根部によって覆われており、該片流れ屋根部又は招き屋根部の下方に最上階の住戸の前記ロフト部が設けられていることが好ましい。

20

【0011】

そして、本発明のロフト付き集合住宅によれば、各住戸の少なくとも一方の仕切り壁と主外壁とによる角部分に、上下階を貫通するようにして配設された矩形断面形状の筒状壁部によって囲まれる収納室が、各居室部から出入り可能に設けられており、各収納室の天井高さは、各居室部の天井高さよりも高くなっていると共に、各収納室は、ロフト床によって上方のロフト部と下方の収納部とに区画されており、且つ上階の住戸では、収納室の床部が各居室部の床部よりも高いスキップ床となっている。したがって、筒状壁部において、最上階の収納室の天井を屋根裏空間に設けると共に、最下階よりも上方の上階の床部を居室部の床部よりも高いスキップ床として設けて、最上階の収納室の天井を屋根裏空間に食い込ませて配置したことによる天井高さの増加分を、下階の収納室の天井高さに割り振ることによって、上下に連設する各階の収納室の天井高さを各々増加させることが可能になり、これによって、ロフト部の下方に相当の高さのスペースを収納部として確保した収納室を、各住戸に効率良く設けることが可能になる。

30

【0012】

また、収納室が配置される筒状壁部は、各住戸の仕切り壁と主外壁とによる角部分において、上下階を貫通するようにして設けられるので、各住戸の居室部の広さや使い易さ等に大きな影響を及ぼすことなく、ロフト部と収納部とからなる収納室を各住戸に効率良く設けることが可能になる。

【0013】

40

そして、本発明のロフト付き集合住宅は、筒状壁部を、隣接する住戸を仕切る仕切り壁を挟んだ両側に一对連設配置することができ、これによって一对の筒状壁部を一体として形成することを可能にして、さらに効率良くロフト部と収納部とからなる収納室を各住戸に設けることが可能になる。

【0014】

また、筒状壁部の主外壁側の一部を当該主外壁よりも外側に突出させて筒状壁部を設けることができ、これによって、本発明のロフト付き集合住宅を構成する集合住宅用建物に、重厚で意匠性に優れた外観デザインを付与することが可能になる。

【0015】

さらに、筒状壁部の主外壁よりも外側に突出する部分の側方には、主外壁に沿って、上

50

階の住戸のバルコニーを設けることができ、これによって、バルコニーを介した隣接する住戸間の連続性を遮断して、プライバシーの確保や騒音の回避を効果的に図ることが可能になる。

【0016】

さらにまた、主外壁と平行な棟を有する切妻屋根又は寄棟屋根によって一部を除く屋根部分を形成すると共に、筒状壁部を、棟よりも主外壁側の部分が当該主外壁側に向けて登り勾配となった部分を含む片流れ屋根部又は招き屋根部によって覆い、且つ該片流れ屋根部又は招き屋根部の下方に最上階の住戸のロフト部を設けるようにすることができ、これによって大きな屋根裏空間を確保して、最上階の収納室の天井部分を屋根裏空間に食い込ませることによる天井高さの増加分をより大きくすることが可能になり、各住戸の収納室を上下方向にさらに広いスペースで形成することが可能になる。また切妻屋根又は寄棟屋根と片流れ屋根部又は招き屋根部とが組み合わせられた、意匠性に優れた外観デザインを集合住宅用建物に付与することが可能になる。

10

【発明の効果】

【0017】

本発明のロフト付き集合住宅によれば、集合住宅の最上階の住戸のみならず、下階の住戸についても、建物全体の高さを高くすることなく、下方に相当の高さのスペースを確保できるロフト部を効率良く設けることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0018】

20

図1～図3に示す本発明の好ましい一実施形態に係るロフト付き集合住宅10は、例えば独身者用の2階建てのワンルームアパートメントであって、略同様の間取りを有する4戸の住戸11が1階及び2階の夫々に配置されて、合計8戸の住戸11を備える賃貸用の集合住宅を構成している。また、本実施形態に係るロフト付き集合住宅10は、就寝用の寝床や収納スペース等として使用可能なロフト部13を全ての住戸11が備えており、このようなロフト部13を、下方に例えば居住者が立つことのできる相当の高さのスペースを確保した状態で、建物18全体の高さを高くすることなく効率良く設けことができるようにするために、本発明を採用したものである。

【0019】

すなわち、本実施形態のロフト付き集合住宅10は、主外壁16側に居室部17を備える住戸11が各階に複数（本実施形態では4戸）連設配置された複数階（本実施形態では2階）の集合住宅用建物18の各住戸11に、ロフト部13を設けた集合住宅であって、各住戸11は、上下階で略同様の間取りを備えると共に、各隣接する住戸11が主外壁16と垂直な仕切り壁15によって仕切られており、各住戸11の少なくとも一方の仕切り壁15と主外壁16とによる角部分に、上下階を貫通するようにして配設された矩形断面形状の筒状壁部19によって囲まれる収納室12が、各居室部17から出入り可能に設けられている（図2（a）、（b）参照）。各収納室12天井高さ12aは、各居室部17の天井高さ17aよりも高くなっていると共に、各収納室12は、ロフト床20によって上方のロフト部13と下方の収納部14とに区画されており、且つ上階（2階）の住戸11では、収納室12の床部12bが各居室部17の床部17bよりも高いスキップ床となっている（図3参照）。

30

40

【0020】

また、本実施形態では、筒状壁部19は、隣接する住戸11を仕切る仕切り壁15を挟んだ両側に一對連設配置されており、また主外壁16側の一部を主外壁16よりも外側に突出させた状態で設けられている（図1、図2（a）、（b）参照）。

【0021】

さらに、本実施形態では、ロフト付き集合住宅10を構成する集合住宅用建物18は、主外壁16と平行な棟22を有する寄棟屋根23によって一部を除く屋根部分が形成されており、筒状壁部19は、棟22よりも主外壁16側の部分が当該主外壁16側に向けて登り勾配となった片流れ屋根部21によって覆われており、この片流れ屋根部21の下方

50

に最上階（２階）の住戸１１のロフト部１３が設けられている（図１、図３参照）。

【００２２】

本実施形態では、集合住宅１０の１階部分の４戸の住戸１１は、図２（ａ）に示すように、略同様の間取りを備えており、各住戸１１の北側部分には、集合住宅用建物１８の北側の外壁２５に沿って配置された１階共用通路２６から出入り可能な玄関２７が設けられている。また玄関２７の南側には、壁１５、３３、３４に沿って調理設備２８ａが配置されたキッチン２８が設けられており、またキッチン２８の調理設備２８ａと反対側に隣接して、洗面室２９ａ、トイレ２９ｂ、浴室２９ｃ等からなる水廻り部２９が設けられている。

【００２３】

キッチン２８及び水廻り部２９の南側には、例えば１０～１２帖程度の広さの居室部１７が設けられており、居室部１７の南側は、集合住宅用建物１８の南側の外壁である主外壁１６によって、屋外から仕切られている。主外壁１６には、後述する筒状壁部１９と隣接する部分に、掃出し窓３０が設けられており、この掃出し窓３０から、後述する２階のバルコニー３１の下方に位置するテラス部３２を介して、屋外に出入り可能となっている。なお、１階部分の東西の端部に位置する住戸１１は、東側妻部外壁３３、或いは西側妻部外壁３４によって、各々屋外から仕切られている。

【００２４】

そして、本実施形態では、各住戸１１の一方の仕切り壁１５と主外壁１６とによる角部分に、矩形断面形状の筒状壁部１９によって囲まれる収納室１２が各々設けられている。収納室１５の詳細については後述する。

【００２５】

本実施形態では、集合住宅用建物１８の西側妻部外壁３３に沿って設けられた屋外階段３５を介して１階部分から昇降可能な集合住宅１０の２階部分の４戸の住戸１１は、図２（ｂ）に示すように、１階部分の住戸１１と略同様の間取りを備えており、各住戸１１の北側部分には、集合住宅用建物１８の北側の外壁２５に沿って配置された２階共用通路３６から出入り可能な玄関２７が設けられている。また玄関２７の南側には、壁１５、３３、３４に沿って調理設備２８ａが配置されたキッチン２８が設けられており、またキッチン２８の調理設備２８ａと反対側に隣接して、洗面室２９ａ、トイレ２９ｂ、浴室２９ｃ等からなる水廻り部２９が設けられている。

【００２６】

キッチン２８及び水廻り部２９の南側には、例えば１０～１２帖程度の広さの居室部１７が設けられており、居室部１７の南側は、集合住宅用建物１８の南側の外壁である主外壁１６によって、屋外から仕切られている。主外壁１６には、後述する筒状壁部１９と隣接する部分に、掃出し窓３０が設けられており、この掃出し窓３０から、２階のバルコニー３１に出入り可能となっている。

【００２７】

そして、各住戸１１の一方の仕切り壁１５と主外壁１６とによる角部分には、１階と２階とを上下に貫通するようにして筒状壁部１９が設けられており、この筒状壁部１９によって四方を囲まれて、ロフト部１３と収納部１４とからなる収納室１２が各々設けられている。

【００２８】

筒状壁部１９は、例えば東西方向の幅が１２００～２０００ｍｍ程度、南北方向の長さが１９００～３０００ｍｍ程度の大きさの矩形断面形状を有しており、図３に示すように、１階の居室部１７の床部１７ｂから、２階の居室部１７の天井高さ１７ａよりも上方の屋根裏空間に至る長さで、上下方向に連続して設けられている。また、本実施形態では、筒状壁部１９の南北方向に沿った一方の面は、隣接する住戸１１間の仕切り壁１９によって構成されており（図２（ａ）、（ｂ）参照）、東側及び西側の各２戸の住戸１１を仕切る仕切壁１９を挟んだ両側に、一对の筒状壁部１９が連設配置された状態で一体として設けられている。これによって、各住戸１１には、一方の仕切り壁１５と主外壁１６とによ

10

20

30

40

50

る角部分に、一箇所づつ収納室 15 が配設されることになる。

【0029】

また、筒状壁部 19 は、主外壁 16 側（南側）の例えば略 1/3 程度の部分を主外壁 16 よりも外側に突出させた状態で設けられている。これによって、筒状壁部 19 の南側の面は、1 階の地表面に近接する部分から、後述する片流れ屋根部 21 の上端部まで連続する、主外壁 16 とは異なった趣きの立体感のある凸状の壁面を形成する（図 1 参照）。さらに、本実施形態では、筒状壁部 19 の主外壁 16 よりも外側に突出する部分の側方には、主外壁 16 に沿って、2 階の住戸 11 のバルコニー 31 が取り付けられている。

【0030】

筒状壁部 19 の内側に設けられる収納室 12 は、図 3 に示すように、その天井高さ 12a が、各居室部 17 の天井高さ 17a よりも高くなるように形成されると共に、各収納室 12 は、ロフト床 20 によって、上方の就寝用の寝床や収納スペース等として使用可能なロフト部 13 と、下方の収納部 14 とに区画されている。すなわち、2 階の住戸 11 の居室部 17 に設けられたロフト室 12 は、その上部を屋根裏空間に食い込ませて、その天井高さ 12a を居室部 17 の天井高さ 17a よりも相当程度高くなるように配置すると共に、2 階の住戸 11 の収納室 12（収納部 14）の床部 12a を居室部 17 の床部 17a よりも高いスキップ床とすることにより、屋根裏空間による 2 階の住戸 11 の収納室 12 の天井高さ 12a の増加分を、1 階の住戸 11 の収納室 12 の天井高さ 12a の増加に割り振ることが可能になる。これによって、各階の収納室 12 をロフト床 20 によって上下に区画して上方にロフト部 13 を設けた場合でも、居室部 17 の天井高さ 17a を高くすることなく、ロフト部 13 の下方に、例えば居住者が立つことのできる相当の高さのスペースを備える収納部 14 を設けることが可能になる。

【0031】

ここで、本実施形態では、図 2（a），（b）に示すように、1 階の住戸 11 の収納室 12 には、仕切り壁 15 とは反対側の南北方向に沿った壁面に、居室部 17 から収納部 14 に出入りするための出入口 37 が設けられると共に、居室部 17 側の東西方向に沿った壁面に、居室部 17 からロフト部 13 に出入りするための梯子 38 が取り付けられている。また、2 階の住戸 11 の収納室 12 には、居室部 17 側の東西方向に沿った壁面に、階段部 39 を介してスキップ床の上の収納部 14 に居室部 17 から出入りするための出入口 40 が設けられると共に、この出入口 40 に隣接して、居室部 17 からロフト部 13 に出入りするための梯子 38 が取り付けられている。さらに、各階の住戸 11 の収納室 12 のロフト部 13 には、筒状壁部 19 の南側の壁面に、採光窓 24 が配設されている（図 1 参照）。

【0032】

本実施形態では、集合住宅用建物 18 の上方を覆う屋根部分は、図 1 及び図 3 に示すように、筒状壁部 19 の上方を含む一部の屋根部分を除いて、主外壁 16 と平行な棟 22 を有する寄棟屋根 23 によって構成されている。また筒状壁部 19 の上方を含む一部の屋根部分は、棟 22 よりも主外壁 16 側の部分が当該主外壁 16 側に向けて登り勾配となった片流れ屋根部 21 になっている。この片流れ屋根部 21 の下方には、最上階（2 階）の住戸 11 のロフト部 13 が、屋根裏空間に食い込むようにして設けられている。

【0033】

そして、上述の構成を備える本実施形態のロフト付き集合住宅 10 によれば、集合住宅 10 の最上階（2 階）の住戸 11 のみならず、下階の住戸 11 についても、建物 18 の全体の高さを高くすることなく、下方に相当の高さのスペースを確保できるロフト部 13 を効率良く設けることが可能になる。

【0034】

すなわち、本実施形態のロフト付き集合住宅 10 によれば、各住戸 11 の一方の仕切り壁 15 と主外壁 16 とによる角部分に、上下階を貫通するようにして配設された矩形断面形状の筒状壁部 19 によって囲まれる収納室 12 が、各居室部 17 から出入り可能に設けられており、各収納室 12 の天井高さ 12a は、各居室部 17 の天井高さ 17a よりも高

10

20

30

40

50

くなっていると共に、各収納室１２は、ロフト床２０によって上方のロフト部１３と下方の収納部１４とに区画されており、且つ上階の住戸１１では、収納室１２の床部１２ｂが各居室部１７の床部１７ｂよりも高いスキップ床となっている。したがって、筒状壁部１９において、最上階（２階）の収納室１２の天井を屋根裏空間に設けると共に、最下階（１階）よりも上方の２階の床部１２ｂを居室部１７の床部１７ｂよりも高いスキップ床として設けて、最上階（２階）の収納室１２の天井を屋根裏空間に食い込ませて配置したことによる天井高さ１２ａの増加分を、下階（１階）の収納室１２の天井高さ１２ａに割り振ることによって、上下に連設する各階の収納室１２の天井高さ１２ａを各々増加させることが可能になり、これによって、ロフト部１３の下方に相当の高さのスペースを収納部１４として確保した収納室１２を、各住戸１１に効率良く設けることが可能になる。

10

【００３５】

また、収納室１２が配置される筒状壁部１９は、各住戸１１の仕切り壁１５と主外壁１６とによる角部分において、上下階を貫通するようにして設けられるので、各住戸１１の居室部１７の広さや使い易さ等に大きな影響を及ぼすことなく、ロフト部１３と収納部１４とからなる収納室１２を各住戸１１に効率良く設けることが可能になる。

【００３６】

そして、本実施形態のロフト付き集合住宅１０は、筒状壁部１９を、隣接する住戸１１を仕切る仕切り壁１５を挟んだ両側に一对連設配置したので、一对の筒状壁部１９を一体として形成することを可能にして、さらに効率良くロフト部１３と収納部１４とからなる収納室１２を各住戸１１に設けることが可能になる。

20

【００３７】

また、筒状壁部１９の主外壁１６側の一部を当該主外壁１６よりも外側に突出させて筒状壁部１９を設けたので、ロフト付き集合住宅１０を構成する集合住宅用建物１８に、重厚で意匠性に優れた外観デザインを付与することが可能になる。

【００３８】

さらに、筒状壁部１９の主外壁１６よりも外側に突出する部分の側方には、主外壁１６に沿って、上階の住戸１１のバルコニー３１を設けたので、バルコニー３１を介した隣接する住戸１１間の連続性を筒状壁部１９によって遮断して、プライバシーの確保や騒音の回避を効果的に図ることが可能になる。

【００３９】

30

さらにまた、主外壁１６と平行な棟２２を有する寄棟屋根２３によって一部を除く屋根部分を形成すると共に、筒状壁部１９を、棟２２よりも主外壁１６側の部分が当該主外壁１６側に向けて登り勾配となった片流れ屋根部２１によって覆い、且つ該片流れ屋根部２１の下方に最上階（２階）の住戸１１のロフト部１３を設けたので、大きな屋根裏空間を確保して、最上階（２階）の収納室１２の天井部分を屋根裏空間に食い込ませることによる天井高さ１２ａの増加分をより大きくすることが可能になり、各住戸１１の収納室１２を上下方向にさらに広いスペースで形成することが可能になる。また寄棟屋根２３と片流れ屋根部２１とが組み合わされた、意匠性に優れた外観デザインを集合住宅用建物１８に付与することが可能になる。

【００４０】

40

なお、本発明は上記実施形態に限定されることなく種々の変更が可能である。例えば、各住戸の仕切り壁と主外壁とによる両側の角部分に各々筒状壁部を配設して、各住戸に２箇所ずつロフト部を設けることもできる。また、筒状壁部は、隣接する住戸を仕切る仕切り壁を挟んだ両側に一对連設配置する必要は必ずしもなく、隣接する住戸間で離間した状態で、例えば各住戸の西側の角部のみに各々配設することもできる。さらに、筒状壁部は、主外壁側の一部を外側に突出させて設ける必要は必ずしもなく、屋根部分を片流れ屋根部によって覆う必要は必ずしもない。筒状壁部の屋根部分を、棟よりも主外壁側の部分が登り勾配となった部分を含む屋根部として、片流れ屋根部の上部をへの字形に折り曲げた形状の招き屋根部とすることもできる。さらにまた、本発明は、２階建ての集合住宅に限定されることなく、２階以上の住戸の収納室の床部をスキップ床として、３階建て以上の

50

中高層の集合住宅に適用することもできる。

【図面の簡単な説明】

【0041】

【図1】本発明の好ましい一実施形態に係るロフト付き集合住宅の外観形状を説明する斜視図である。

【図2】本発明の好ましい一実施形態に係るロフト付き集合住宅の構成を説明する、(a)は1階部分の間取り図、(b)は2階部分の間取り図である。

【図3】本発明の好ましい一実施形態に係るロフト付き集合住宅の構成を説明する、図2(a)、(b)のA-Aに沿った略示断面図である。

【符号の説明】

10

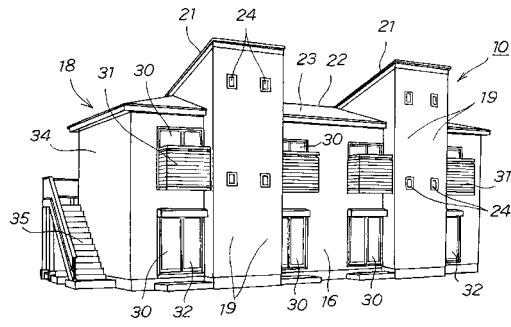
【0042】

- 10 ロフト付き集合住宅
- 11 住戸
- 12 収納室
- 12a 収納室の天井高さ
- 12b 収納室の床部
- 13 ロフト部
- 14 収納部
- 15 仕切り壁
- 16 主外壁
- 17 居室部
- 17a 居室部の天井高さ
- 17b 居室部の床部
- 18 集合住宅用建物
- 19 筒状壁部
- 20 ロフト床
- 21 片流れ屋根部
- 22 棟
- 23 寄棟屋根
- 31 バルコニー
- 38 梯子
- 39 階段部

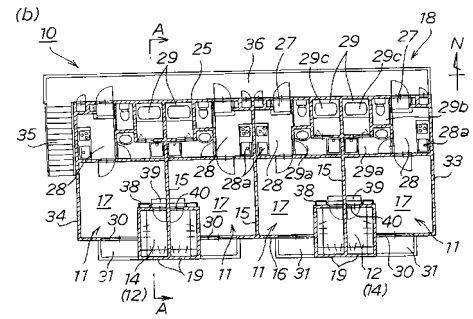
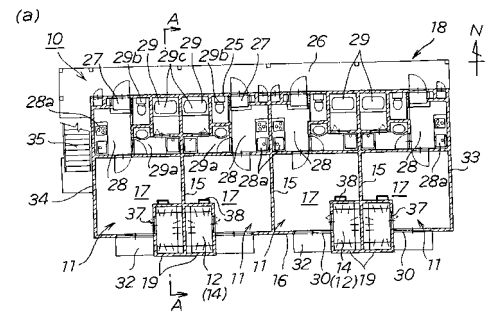
20

30

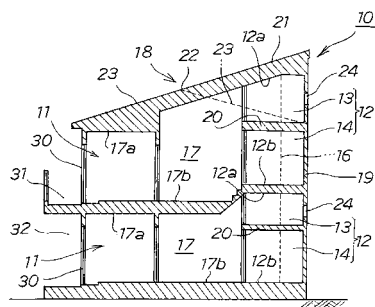
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

(72)発明者 鈴木 久之
東京都千代田区丸の内一丁目8番1号 住友林業株式会社内

審査官 鉄 豊郎

(56)参考文献 特開2002-242462 (JP, A)
特開2002-213091 (JP, A)
特開2005-273238 (JP, A)
登録実用新案第3118644 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
E04H 1/04
E04F 19/08